### 職業実践専門課程等の基本情報について

仙台こども専門			置認可年月		校長名		004 0051	所在地		
	学校	平原	成24年3月1	5日 #	毎田 一成	〒 (住所)	984-0051 宮城県仙台市若林区	新寺1-4-16		
設置者名		≣₽.	立認可年月	9 9	代表者名	(電話)	022-742-5660	所在地		
						₹	113-0033			
学校法人三幸!			和60年3月		鳥居 敏	(電話)	東京都文京区本郷三 03-3814-6151			
分野		認定課程を		認定学			門士認定年度	高度専門士認定		<u>門課程認定年度</u>
教育・社会福祉	教育*↑	社会福祉専	計門林性	保育	114	<del>*</del> A	<b>艾26(2014)年度</b>		IΛτ	1(2019)年度
学科の目的				をミッションとし、学れ 成することを目的とす		き、保育業界	に従事しようとする者にぬ	必要な実践的かつ専門	門的な知識、技能を教授	することによって、
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	資格:保育	ī±								
修業年限	昼夜	全課程の		な総授業時数又は 立数	総講	義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	単位時間	ı	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
年				62 単位		7 単位	53 単位	10 単位	0 単位	1 単位
生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生割	合(B/A)	中退率			
400 人	193			0 人		) %	5 %			
	■卒業者	数(C) ·望者数(D	:	12 12		<del></del>	=			
	■就職者	数(E)	:	12		<del>\( \)</del>	-			
	■地元就	職者数(F	)	8.		人	<u>-</u>			
	■就職率		1元分學十二		U	%	=			
	■奶啡白	トロめる地	ルが戦争の	)割合 (F/E) 6:	5	- %				
	■卒業者	に占める就	職者の割合	(E/C)		_	-			
	■准坐≥	·米h		96		%	-			
就職等の状況	■進学者			U		^	-			
			t			- 141				
	(令和			に関する令和7年	5月1日時点の作	育報)				
		職先、業界	等							
	(令和6年度		- 1°+ F	. <del> </del>	A alle					
	划惟图、1	<b>休育图、</b> 認	正ことも国	、福祉施設、一般	正耒					
	■民間の	評価機関	等から第三	者評価:			無			
第三者による	※有の場合	1、例えば以	下について任	意記載						
学校評価		評価団体:			受審年月:		評価	i結果を掲載した		
		开脚凹畔.			文备十月.		ホー	ムページURL		
当該学科の										
ホームページ URL	https://w	ww.sanko.ac	: in/sendai-							
02			Jijpi Corraai	Crilla/						
	/ a 134 /	+ n+ BB / - 1		cniid/						
	(A:単位	立時間によ	る算定)	cniid/						
	(A:単f	立時間によ総授業時数	る算定)	eniid/					単位時間	
	(A:単f		る算定)	GNIIIの	実習・実技の授	業時数			単位時間単位時間	
	(A:単f		る算定) 数 うち企業等			業時数				
	(A:単f		る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・ 等と連携した演習の		業時数			単位時間単位時間	
	(A:単f		る算定) 数 うち企業等	手と連携した実験・ 手と連携した演習の 最業時数	授業時数		七小垣拳蛛教		単位時間 単位時間 単位時間	
	(A:単f		る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携	)授業時数 した必修の実験	・実習・実			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
	(A:単f		る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習	・実習・実 の授業時数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
企業等と連携した	(A:単f		る算定) 数 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習	・実習・実 の授業時数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修授	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習	・実習・実 の授業時数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修授	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習	・実習・実 の授業時数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修授	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習	・実習・実 の授業時数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修哲 (うち企業	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ターンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数)			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち必修打 (うち企業 算定)	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 く等と連携したイン	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ターンシップの 実習・実技の単	・実習・実 の授業時数) 授業時数)			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち必修打 (うち企業 算定)	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 もなる。 を 等と連携したイン を 等と連携した実験・ 等と連携した演習の	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ターンシップの 実習・実技の単	・実習・実 の授業時数) 授業時数)			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企う 算定) うち企業等 (うち企う	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ・ターンシップの 実習・実技の単	・実習・実 の授業時数) 授業時数) 位数			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 2 単位 2 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企う 算定) うち企業等 (うち企う	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した大演習の 単位数 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ・ターンシップの 実習・実技の単 単位数 した必修の実験	・実習・実 の授業時数) 授業時数) 位数 ・実習・実			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企う 算定) うち企業等 (うち企う うち企業等 (うち企業等)	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ・ターンシップの 実習・実技の単 単位数 した必修の演習	<ul><li>・実習・実</li><li>の授業時数)</li><li>/ 投業時数)</li><li>/ 位数</li><li>・実習・実</li><li>の単位数</li></ul>			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企う 算定) うち企業等 (うち企う うち企業等 (うち企業等)	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した大演習の 単位数 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ・ターンシップの 実習・実技の単 単位数 した必修の演習	<ul><li>・実習・実</li><li>の授業時数)</li><li>/ 投業時数)</li><li>/ 位数</li><li>・実習・実</li><li>の単位数</li></ul>			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費	る算定) 数 うち企業等 うち企業等 (うち企う 算定) うち企業等 (うち企う うち企業等 (うち企業等)	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 ・ターンシップの 実習・実技の単 単位数 した必修の演習	<ul><li>・実習・実</li><li>の授業時数)</li><li>/ 投業時数)</li><li>/ 位数</li><li>・実習・実</li><li>の単位数</li></ul>			単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時刻 立数による 総単位数 でその担当	る算定) 数	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 でも、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) (位数 ・実習・実 の単位数)		第1号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時が 並数による数 による数 でででである。 でででは、 ででは、	る算定) 数	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 是業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 1位数 うち企業等と連携した方 1位数 うち企業等と連携 したイン ま等と連携した大演習の このもので表す。 ま等と連携したイン まずを表す。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをます。 まずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをまずをま	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) (位数 ・実習・実 の単位数)	技の単位数	第1号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 10 単位 2 単位 12 単位 0 単位 2 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時刻 立数による 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	る算定 数 うちな 変 等 担 等 等 担 等 等 担 等 等 担 等 等 担 等 等 担 等 等 を 企 企 変 実 響 等 単 明 等 と か の な 年 明 育 と ま す き す き す き す き き す き す き す き す き す き	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した大変習の 自位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 を発と連携したイン な業等と連携 した後、 等に従事した者でも はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・ は位数 ・ 実習・実 の単位数) (専修学	技の単位数		単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 10 単位 2 単位 12 単位 0 単位 2 単位 0 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)		並数による数単位数 ① 京の程子 でで、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	る 算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 受業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 位位数 うち企業等と連携 は位数 うち企業等と連携 は位数 うち企業等と連携 はである。 はである。 はでは、 はでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数 (専修学	技の単位数   	第2号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 2 単位 0 単位 2 単位 0 単位 2 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		総授業時刻 立数による 総単位数 ① 専修担例 してでいる。 ② 学 等等	る算定) 対 うち企業等等技術 (うちん必修な企業等等を対 している。 なり、	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 自位数 うち企業等と連携したイン 章と連携した大演習の 自位数 うち企業等と連携 ま等と連携したイン 業程を修すした名、 業程を修すした後、 きと連携を移すした者、 ま等と連携を表した。 まずを表しまり、 まずをましり、 まずを表しまり、 まずを表しまり、 まずをましり、 まずをましり、 まずを表しり、 まずを表しまり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりを	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数) (専修学 (専修学	技の単位数 : 校設置基準第41条第1項 : 校設置基準第41条第1項	第2号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 91 単位 0 単位 2 単位 12 単位 1 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)		総授業時が 並数による数による数単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	る算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 自位数 うち企業等と連携したイン 章と連携した大演習の 自位数 うち企業等と連携 ま等と連携したイン 業程を修すした名、 業程を修すした後、 きと連携を移すした者、 ま等と連携を表した。 まずを表しまり、 まずをましり、 まずを表しまり、 まずを表しまり、 まずをましり、 まずをましり、 まずを表しり、 まずを表しまり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをまりをまりをましり、 まずをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりをまりを	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 10 単位 2 単位 12 単位 12 単位 14 人 10 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		総授業時が が が が が が が が が が が が が が	る算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 自位数 うち企業等と連携したイン 章と連携した大演習の 自位数 うち企業等と連携 ま等と連携したイン 業程を修すした名、 業程を修すした後、 きと連携を移すした者、 ま等と連携を表したイン	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 1 単位 2 単位 2 単位 1 2 単位 1 4 人 0 人 1 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を 動員の属性(専任 教員について記		総授業時が 並数による数による数単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	る算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 自位数 うち企業等と連携したイン 章と連携した大演習の 自位数 うち企業等と連携 ま等と連携したイン 業程を修すした名、 業程を修すした後、 きと連携を移すした者、 ま等と連携を表したイン	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 10 単位 2 単位 12 単位 12 単位 14 人 10 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を 動員の属性(専任 教員について記		総授業時が が が が が が が が が が が が が が	る算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 自位数 うち企業等と連携したイン 章と連携した大演習の 自位数 うち企業等と連携 ま等と連携したイン 業程を修すした名、 業程を修すした後、 きと連携を移すした者、 ま等と連携を表したイン	授業時数 した必修の実験 した必修の演習 実生位数 した必修の演習 実力の 実習・実技の単 した必修のの実験 した必修のの実験 でクーンシップの	・実習・実 の授業時数) 授業時数) ・実習・実 の単位数) (専修学 (専修学 (専修学	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 1 単位 2 単位 2 単位 1 2 単位 1 4 人 0 人 1 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を 動員の属性(専任 教員について記		<ul> <li>総授業時務</li> <li>立数による</li> <li>総単位数</li> <li>事の修担の年</li> <li>学高等士</li> <li>各の付計</li> </ul>	る算定	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携 自位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 する企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験 した必修のの実験 にた必修ののの方で 実技の単 した必修のの演習 ・実技の単 した必修のの演 で ・実技の単 した必修のの演 で ・実技の単 した必修のの演 で ・実技の単 した必修のの演 で ・実技の単 におきる。 「に当を通	・実習・実習・実別を表現である。 ・実習・実際 ・ 実習・ 実際 ・ 実際 ・ 実 で の 単位数 ) ・ 実 で は で で で で きゅう で きゅう で きゅう で で きゅう で で きゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう し	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 1 単位 2 単位 2 単位 0 単位 1 人 1 人 14 人 0 人 0 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を 教員の属性(専任 教員について記		総授業時が 並数による 総単位数 「1・その程 でで開して、学・第十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二	る第	等と連携した実験・ 等と連携した演習の 要業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携 自位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 する企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	授業時数 した必修の実験した必修の演習・実技の単単位数 した必修の演習・実技の単単位数 した必修の演習・実技の単単に必修の演習・大変を受ける。 した必修の実験による。 ないでは、は、事業を表現した。 ない、事業を表現した。 ない、また。	・実習・実習・実別を表現である。 ・実習・実際 ・ 実習・ 実際 ・ 実際 ・ 実 で の 単位数 ) ・ 実 で は で で で で きゅう で きゅう で きゅう で で きゅう で で きゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう し	技の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 1 単位 2 単位 2 単位 1 2 単位 1 4 人 0 人 1 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

#### (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、保育分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、保育分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
野津 直樹		令和7年4月1日~令和9年3月 31日まで(2年)	2
大木 俊則		令和7年4月1日~令和9年3月 31日まで(2年)	1
栗田 光		令和7年4月1日~令和9年3月 31日まで(2年)	3
津脇 俊	仙台こども専門学校 副校長		_
相澤 美穂	仙台こども専門学校 教務主任		_
篠原 順子	仙台こども専門学校 教務主任		_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
- (年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月24日 10:00~12:00

第2回 令和7年1月29日 10:00~12:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- 委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。
- ①通信制高校出身者が増えている状況から様々な学び方が求められている
- ⇒対応:本校では2026年度から週3日通学のコースを開設予定。全国の姉妹校では午前のみ通学のコースを開設するなど、多様な学生を受け入れられる準備をしている。
- ②現場では主体的でポジティブ、挨拶もしっかりできる雰囲気が明るい人材が求められる
- ⇒対応:オープンキャンパススタッフなど対外的な人との関わりが多い学生は成長が速い。引き続き、行事やボランティアなど、授業以外の機会でも社会人に求められる力を育成できる環境を作っていきたい。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、保育業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。保育業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
- \*授業内容について
- ①領域「表現」を理解し、日常の保育や行事での「表現」に関する具体的な指導法の基礎がわかる。
- ②「表現」に関する指導案の立案方法が理解できる。
- ③保育者として自ら表現することを楽しみ、表現力を広げ深めていけるよう計画し、模擬保育を想定した「表現」の指導法について探求することができる。
- ④幼児の豊かな「表現」を保証する環境や人との関係性、表現のプロセスを大切にした援助の仕方を思案できる。
- \*評価について

連携企業による項目別評価を基に最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

(,	3/長体的は建携の例案	(付日数については代衣的な	5件日について記載。	
	科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
	保育制作 I	1. 【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	子どもの保育内容を理解し、製作遊びを豊かに展開するために必要な基本知識と技術を習得する。また、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする中で、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や表現活動に関する保育技術を習得する。	有限会社 プランニング開

- 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の保育業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修
- (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ICT活用が前提となる保育業界で保育士に求められる資質とは? 連携企業等:株式会社コドモン

期間: 令和6年8月23日(金) 対象: 教職員20名

内容 ICTを活用した施設運営・マネジメント・保育業務の実践事例を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 授業力向上のための教職員研修 連携企業等: - 般社団法人日本栄養コンシュルジュ協会

期間: 令和6年9月27日(金) 対象: 教職員75名

内容 授業力向上のためのテクニックと成功事例の共有

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 児童養護施設の現状と働き方 連携企業等:児童養護施設聖母愛児園

期間: 令和7年10月6日(月)•7日(火) 対象: 教職員20名

内容 昨今の児童養護施設の状況と、就職動向、職務内容について学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 必要とされる合理的配慮とは? 連携企業等: 合同会社C&C

期間: 令和7年9月26日(金) 対象: 教職員80名

内容
具体的な合理的配慮例や、気になる学生の対応方法について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

/ 久口 C V / 1 l l l l l l l l l l l l l l l l l l
学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標
(2)学校運営
(3)教育活動
(4)学修成果
(5)学生支援
(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集
(8)財務
(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献

- ※(10)及び(11)については任意記載。
- (3)学校関係者評価結果の活用状況
- 委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。
- ①保育現場でもICTの活用が進んできている。学校でもICT教育に更に力を入れて欲しい。
- ⇒対応:学園全体でもICT教育の取り組みには注力しているところ。これを継続し、授業や実習においても活用できる形にしていく。
- ②現場で働く職員にも精神的なフォローが必要な人が多くなってきている。在学中のフォロー体制を知りたい。
- ⇒対応:スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、対象学生が通学できるようにサポートしている。状況によってはハイフレックス授業の実施も検討している。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
平山 乾悦	いいいきょみないぎょせんいいキとものに	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	企業等委員
真壁 悠		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	企業等委員
小山田 由衣		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生
加藤 恵理	アベンナ / 一 平 ア   回   111  一 . ア 4.1半 音   回	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物 · その他( ))

URL: <a href="https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-child/">https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-child/</a>

公表時期: 令和7年7月31日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。
- 1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性 化や学校運営の円滑化につなげること。
- 2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
- 3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業 要件、目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価·学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	高等教育の修学支援新制度

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)· 広報誌等の刊行物 · その他( ))

URL: <a href="https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-child/">https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-child/</a>

公表時期: 令和7年7月31日

# 授業科目等の概要

				L会福祉専門課	程 保育科)											
		分類	į						授	業プ	5法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技		校 外	専任		企業等との連携
1			0	情報処理	保育士として、また社会人として必要な基本的な文書作成や図表作成のためのパソコンでの文書入力、表計算知識を習得し、実社会において、有為な人材として活躍できる技能の習得を目的とする。	1 通	30	2		0		0			0	
2			0	ペン字	保育士として、また社会人として必要な基本的な文字・文章の書き方を習得し、ペン字のスキルを総合的に学習し、実社会において、有為な人材として活躍できる技能の習得を目的とする。	1 通	30	1		0		0			0	
3			0	基礎学力演習	この科目では、保育を学ぶ短大生に必要とされる基礎的学力を習得すると共に、社会人に必要とされる表現力について学びます。特に、日本語の敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字に焦点を当て、日本語検定受検に向けた力をつけることを目指す。	1 通	30	2		0		0		0		
4	0			未来デザイン プログラム I	社会人基礎力の向上を目的として、フランクリンコビー著書「7つの習慣」をベースに、成功に近づく考え方や行動習慣を身につける。		30	2		0		0		0		
5			0	英語	日常的な会話を理解することができるようになる 為、基本的な会話に必要な基礎的な事柄を練習問題 を交えて学習をする。ヒヤリング能力の向上を目指 し、具体的場面が設定された会話、それに伴う発音 を耳から学び、会話力の向上も目的とする。	1 通	30	2		0		0			0	
6	0			保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、 保育の目標と方法、保育の思想と歴史的変遷につい て理解し、保育の現状と課題について考察する。	1 通	30	2	0			0		0		
7	0			教育原理	教育の意義・目的及び児童福祉等とのかかわり、教育の思想と歴史的変遷や教育に関する基礎的な理論、教育の制度や実践、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。	1 通	30	2	0			0		0		
8			0	社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解するとともに、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。	1	30	2	0			0			0	
9	0			保育者論	近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。就学前教育・保育のニーズも多様化する中、保育者に求められることは、子どもの成長をしっかりと支え、一人一人の子どもの成長を促すことができる「専門性」を身につける。		30	2	0			0		0		
10			0	保育の心理学	保育実践にかかわる心理学の知識、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことや生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。	1	30	2	0			0		0		

11		C	)子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健、子どもの疾病とその予防法および適切な対応、子どもの精神保健とその課題、保育における環境及び衛生管理並びに安全管理、施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	1	30	2	0		0	0		
12		C	子どもの食と 栄養 I	健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	1 前	30	1		0	0		0	
13		C	)健康	養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「健康」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	1	30	1		0	0		0	
14		C	)人間関係	養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「人間関係」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	1	30	1		0	0	0		
15		C	)環境	養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「環境」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	1	30	1		0	0	0		
16		C	)言葉	養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「言葉」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	1	30	1		0	0	0		
17	0		音楽表現I	子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術、身近な自然やものの音や音色・人の声や音楽等に親しむ経験と保育環境、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。		60	2		0	0	0		
18	0		保育製作I	子どもの保育内容を理解し、製作遊びを豊かに展開するために必要な基本知識と技術を習得する。また、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする中で、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や表現活動に関する保育技術を習得する。	1	60	2		0	0		0	0
19		C	)身体表現I	①子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・ 段階的に理解する。②子どもの発育・発達に応じた 運動遊びの展開を構築する。③運動遊びの援助方法 や安全管理(環境、遊具等)の基本について理解す る。	1	30	1		0	0		0	
20		C	)乳児保育 I	乳児保育の理念と歴史的変遷および役割、保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達と保育内容、乳児保育の実際、乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。	通	30	2	0		0	0		
21		C	)障害児保育	障がい児保育を支える理念や歴史的変遷、様々な障がい、障がい児保育の実践、家庭及び関係機関との連携、障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。		60	2		0	0		0	
22		C	保育実習指導 I (保育所)	保育実習の意義、実習の内容と課題、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。 そして、実習後の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	1	30	1		0	0	0		

23	0		地域支援 実践	地域社会において福祉・教育・保育の領域に関わる ボランティア活動への参加を通し、多様な能力の育 成、社会性の涵養、知識と技術の習得などを目指 す。ボランティア活動への心構えを築き、活動全般 の振り返りも行う。	1	60	2		0			0	0	
24		0	製作表現	造形遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識 と技術を習得する。	1 通	30	1		0		0		0	
25		0	音楽表現Ⅱ	幼児教育に携わる保育者に必要な音楽能力を習得するために、楽典の教科書を中心にしながら、歌唱及び器楽演奏に伴う譜読力や表現方法を学習していく。	1 通	30	1		0		0			0
26		0	こどもの うた I	幼児教育での音楽活動に対応するに当たり、最も必要な歌唱を習得していく。そのために呼吸法及び歌唱時の表現方法を学習し、子どものうたのレパートリーをより多く歌えるようにする。	1 通	30	1		0		0			0
27		0	ホーム ルーム I	学校生活を送る上での諸連絡、諸伝達を行い、クラス内での情報の共有を図る。また、生活面における 生徒指導など、学校生活に関わる諸注意事項を徹底 させることにより集団生活における学校全体のモラ ルの向上を目指す。	1	30	1		0		0		0	
28		0	実習指導	実習に比重を置き授業を進めていく。主な内容として、1年生で行う観察実習、2年生で行う保育実習に向けての基本知識の習得である。	1 通	60	2		0		0		0	
29		0	モチベーショ	学校や社会でおこる「不都合な現実」に対し、モチベーション理論を基にしたセルフコントロールスキルを学ぶことで、適切に向き合い乗り越える方法を学ぶ。	2	15	1		0		0		0	
30		0	体育(講義)	運動や栄養など、健康に関わるエピソードを通して、健康を総括的にとらえ、個人個人が自分にあった健康処方・運動処方をデザインできるようになることを目的として行う。	2 前	15	1	0			0			0
31		0	体育(実技)	健康維持と体力増進を目的とするが、スポーツの持つ娯楽性に対する感受性を高めることを主眼として行い、有酸素運動、レクリエーションゲームなどを中心に講義を進める。		30	1			0	0			0
32		0	表現	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってはしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。3.子どもの発達を理解する。3.子どもの発達を理解する。3.子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な保育のの変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な保育の大学ともの発達や実態に即した具体的な保育のつなは、計画・実践・記録・省察・評価・改善)にて具体的に理解する。4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。	2 通	30	1		0		0		0	
33		0	言語表現	1.素話や絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊びなど、子どもの言語発達に関わる 児童文化財の特徴や正しい扱い方を学ぶ。 2.集団を前にしての実技と相互批評を通して、保育現場で子どもの言語活動を豊かに展開する実践力を身につける。	2 通	30	1		0		0		0	
34		0	子どもの食と 栄養Ⅱ	1. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	0	30	1		0		0		0	

35	0	子ども家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変 遷、児童家庭福祉と保育との関連性および児童の人 権、児童家庭福祉の制度と実施体系、児童家庭福祉 の現状と課題、児童家庭福祉の動向と展望について 理解する。	2 通	30	2	0		0	0		
36	0	子ども家庭支 援論	家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会 的状況、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニー ズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携に ついて理解する。	2 通	30	2	0		0		0	
37	0	社会的養護 I	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理および責務、施設養護及び他の社会的養護の実際、支援計画と内容、社会的養護にかかわる専門的技術、社会的養護の今後の課題と展望について理解する。	2	30	2	0		0		0	
38	0	子ども家庭支 援の心理学	子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、保育における発達援助について学ぶ。	2 通	30	2	0		0		0	
39	0	子どもの理解と援助	保育士には、保育所や児童福祉施設を利用する子どもや家族だけでなく、地域で子育てする全ての家庭を支援することが求められている。そのような保育士の社会的使命を果たすために、事例分析も交えながら相談援助の知識、技術について学習する。	2	30	1		0	0	0		
40	0	保育の計画と 評価	保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価、保育課程の編成と指導計画の作成、計画・実践・省察・評価・改善の過程について理解する。	2 通	30	2	0		0	0		
41	0	保育内容総論	保育の基本と保育内容、保育内容の歴史的変遷、保 育内容と子ども理解とのかかわり、保育の基本を踏 まえた保育内容の展開、保育の多様な展開について 理解する。	2 通	30	1		0	0	0		
42	0	乳児保育Ⅱ	乳児保育 I を基盤とし、乳児保育の理念と歴史的変遷および役割、保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達と保育内容、乳児保育の実際、乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。	2	30	1		0	0	0		
43	0	子どもの健康と安全	ケガや病気の初期症状や、子どもが示すサインについて学び、初期対応ができるようにする。また、保護者への伝達、助言を考察する。	· 2 通	30	1		0	0		0	
44	0	社会的養護Ⅱ	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁 護、社会的養護の制度や実施体制、社会的養護にお ける児童の人権擁護および自立支援、社会的養護の 現状と課題について理解する。	2	30	1		0	0		0	
45	0	子育て支援	地域交流の場として、保護者への子育ての知識の提供・親同士の交流子育て支援の量を増やし、必要とする全ての家庭が利用できる支援を用意するための制度や知識理解を図る。	2	30	1		0	0		0	
46	0	保育実習指導 I (施設)	①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	1通	30	1		0	0	0		

47	0		保育実習 I (保育所)	保育所の役割と機能、保育内容と保育環境、保育の計画・観察・記録、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、子どもへの理解を深める。	2 前	90	2			0		0	0		
48		0	保育実習 I (施設)	施設の役割と機能、養護内容と生活環境、支援計画 と記録、専門職としての保育士の役割と倫理を学 び、子どもへの理解を深める。	2 後	90	2			0		0	0		
49		0	保育実践 演習	保育現場の実態に対応できる「実践的指導力」を もった保育士を養成する為に、少子高齢化や虐待及 びそれに伴う世代間連鎖など現代的課題について現 状分析や考察や検討を行う。また、問題解決の為の 対応や判断方法等についての学びを深める。	2 通	60	2		0		0		0		
50		0	教育相談	子どもたちの大半がストレスを感じているといわれる現代社会では、家庭の中、友達の輪の中、集団の中、学校の中で、自己不全感を感じ、うまく適応できない子どもたちが増えている。そういった子どもたちを支援し、自ら生きるカ、より健全に成長していく力を取り戻して、社会の中で生き生きと活躍してもらうためには、どのようなかかわりが必要なのかを学ぶ。		30	2	0			0			0	
51		0	教育の方法と 技術	様々な保育形態を知り、保育をデザインする力を身に付けることを目標とし、情報リテラシーや教材開発の方法を身につけることをテーマとする。子どもたちが興味を持ち、意欲的に取り組む中で実感を伴った理解をするには、どのような要素が必要かを考察する。		30	2		0		0		0		
52		0	音楽表現Ⅲ	幼児教育の音楽指導上に必要な鍵盤楽器(ピアノ)による伴奏法と簡単な即興演奏を身に付ける。コードネームと和音記号を理解し、子どもの歌伴奏に必要な鍵盤和声を習得する。	2 通	60	2		0		0			0	
53		0	音楽表現IV	楽器演奏の基本的技術を確認しながら、合奏技能を 高めることを目標とする。授業内では、様々な合奏 形態について論じるが、実践においては保育現場に おける実情を考え、主に教育用楽器(カスタネッ ト・太鼓など)を用いて合奏を試みる。		60	2		0		0			0	
54		0	保育製作Ⅱ	保育製作 I を基に、子どもの発達と造形表現に関する知識と技術、身近な自然やものの色や形・感触やイメージ等に親しむ経験と保育環境、子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。	2	60	2		0		0			0	
55		0	身体表現Ⅱ	身体表現 I をもとに ①子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・ 段階的に理解する。 ②子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開を構 築する。 ③運動遊びの援助方法や安全管理(環境、遊具等) の基本について理解する。	2 通	30	1		0		0			0	
56		0	保育実習Ⅱ	保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とし、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目指し保育所での実習を行う。	2 後	90	2			0		0		0	
57		0	保育実習Ⅲ	保育実習 I での実践を通して学んだ技術と、理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とし、家庭と地域の生活実態にふれ、施設の役割と機能、養護内容と生活環境、支援計画と記録、専門職としての保育士の役割と倫理を学び、福祉の視点を持った保育士養成を目指し施設での実習を行う。	2	90	2			0		0	0		

58		0	保育実習指導 Ⅱ	保育実習 I (保育所) での学びをもとに、さらなる 理解と技術の向上を目指し、準備や心構えについて を学ぶ。	2 通	30	1	0		0		0		
59		0	保育実習指導 Ⅲ	保育実習 I (保育所) での学びをもとに、さらなる 理解と技術の向上を目指し、準備や心構えについて を学ぶ。	2 通	30	1	0		0		0		
60		0	インターン シップ	責任のある立場での職業体験を通じて、働くことの 意義や厳しさを体感し、就職活動の幅を広げる。	2 通	90	2		0		0	0		
61		0	ホーム ルーム II	学校生活を送る上での諸連絡、諸伝達を行い、クラス内での情報の共有を図る。また、生活面における生徒指導など、学校生活に関わる諸注意事項を徹底させることにより集団生活における学校全体のモラルの向上を目指す。	2	30	-	0		0		0		
62			就職指導	履歴書指導や面接指導等、内定を得るための就職試験対策を行う。また、社会で活躍できる人材となるための心構えを学ぶ。	2 通	30	-	0		0		0		
		合	計	62	科	·目			91	単化	立 (	単位	時間	)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	原則として教育課程に定められている順序で履修する。 【必履修科目】 ・未来デザインプログラム I ・保育原理・教育原理・保育者論 ・音楽表現 I ・保育製作 I ・保育実習 I (保育所)または地域支援実践を選択	1 学期の授業期間	15 週

## (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。